

カナダ・ブリティッシュコロンビア州オカナガンバレーの ケローナ地域におけるワインツーリズム

矢ヶ崎典隆

日本大学文理学部

カナダ・ブリティッシュコロンビア州の内陸に位置するオカナガンバレーは、この国有数のワイン生産地域として知られ、20世紀末から急速な発展を経験した。本稿は、ワインツーリズムに着目することにより、この発展過程を明らかにすることを目的とした。そのために、オカナガンバレーワイン生産地域の中核をなすケローナ地域を対象として、32軒のワイナリーの特徴、ワインツーリズム、土地利用の変化に着目した。多様な出身国と職歴を有する人々がワイン産業に参入し、さまざまな取り組みが行われる。行政による観光振興は、観光案内所、各種のパンフレット、ワイン博物館などを通して、ワインツーリズムの基盤をなしている。ワイナリー建設と新しいワイン事業の取り組みは継続しており、この地域の人口増加とオカナガンワインの高い評価を考えると、ワイン産業とワインツーリズムは今後も継続した発展が予測される。

キーワード：ワイン、ワイナリー、ワインツーリズム、オカナガンバレー、カナダ

I はじめに

ブリティッシュコロンビア州はオンタリオ州とともにカナダの主要なワイン生産州である。ブリティッシュコロンビア州ワインインスティテュートが刊行したワイナリーツアーガイド *British Columbia Winery Touring Guide 2015* によると、同州には5つのワイン地域 (Vancouver Island, Gulf Islands, Fraser Valley, Okanagan Valley, Similkameen Valley) が存在し、そのなかでオカナガンバレーは中心的存在である。この地域には過去30年間に新しいワイン生産地域が形成された。新大陸に登場したこの新興ワイン生産地域は、地理学の観点からみると興味深い存在である。

ワインは農産物であるので、地理学研究者は従来、自然環境、農業、流通などの観点から、また、歴史地理学的な観点からワインとワイン産業について議論してきた (たとえば、de Blij, 1983; デイオン, 2001)。しかし、オカナガンバレーにおけ

るワイン産業の発展は、農村空間の商品化の視点を導入することによって説明することができる。すなわち、新しいワイン生産地域を読み解くためには、20世紀末以降のグローバル化の進展、新しいライフスタイルの登場、そして政府による産業振興政策を背景として、ルーラルツーリズムの一つの形態であるワインツーリズムに着目することが鍵となる。また近年、ワインツーリズムへの関心が世界的に高まっており (Hall et al., 2000)、オカナガンバレーの事例を提示することの意義は大きい。

オカナガンバレーにおけるワイン産業の発展や特徴については、カナダの地理学研究者によってすでに論じられている (Senese et al., 2012; Carmichael and Senese, 2012)。しかし、南北に細長いオカナガンバレーの地域差とその利用、ワイナリー経営と経営者の多様性、急速な土地利用変化、ワインツーリズムの形態については、依然として検討すべき課題が残っている。本稿は、急速に形成された新しいワイン生産地域を地理学的

な視点と方法により検討する作業の一部として、オカナガンバレーのワイン産業の中心であるケローナ地域を対象として、ワインツーリズムに着目してワイン生産地域の特徴を明らかにすることを目的とする。

II オカナガンバレーワイン地域の形成

1. 発展の概要と要因

オカナガンバレーの発展とワイン産業の展開について、既往研究 (Senese et al., 2012 ; Carmichael and Senese, 2012) に基づいて概要を把握してみたい。オカナガンバレーは南北方向に約150kmにわたって延びる谷であり、北からオカナガンレーク、スカハレーク、オソユースレークが連なる。そして南端部はアメリカ国境に接する (図1)。温暖で乾燥した気候が特徴的であるオカナガンバレーでは、19世紀後半にヨーロッパ系入植者によって植民が開始された。1880年代の大陸横断鉄道 (CPR) の開通は開発を促進するきっかけとなった。20世紀初頭に農業の集約化が進展し、リンゴやモモなどの果樹栽培が発展した。20世紀後半になると、アメニティ産業の発展、退職者コミュニティ、別荘地開発、観光化、ワインツーリズムなどによって、人口が増加し、地域経済の発展が加速した。

1980年代からの急速な発展と新しい高級ワイン産地の誕生の要因としては、温暖で乾燥した気候条件がブドウ栽培に適していることがあげられる。発展の原動力となったのは、地域外からの資本、技術、経営者の流入であった。また、アメリカ合衆国との自由貿易協定の締結によって地元の農業の存続に危機感を抱いたブリティッシュコロンビア州政府は、政府による保護・統制、品質管理制度 (Vintners Quality Alliance, QVA) を導入して産業の存続と発展を推進した。こうした動きと並行して、人々の間には地産地消 (ローカル

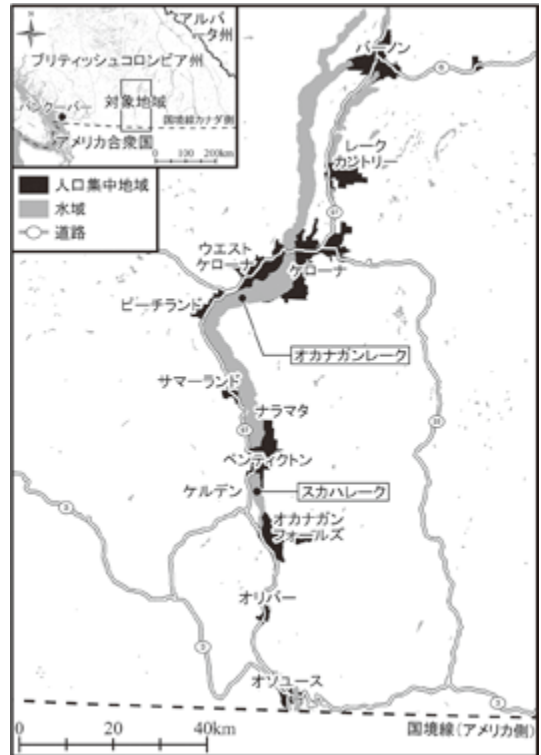


図1 カナダ・ブリティッシュコロンビア州
オカナガンバレーの概要

フード) 運動が展開し、ツーリズムを基盤としたワイン産業が成功をおさめることになった。

2. ワイナリーの分布とワインツーリズム

前述の *British Columbia Winery Touring Guide 2015* に掲載されたワイナリー一覧から集計すると、オカナガンバレー全域には2015年現在で136のワイナリーが分布する。地域ごとにみると、北から、レークカントリー・ケローナ・ウエストケローナ地域に30軒、ピーチランド地域に2軒、サマーランド地域に14軒、ナラマタ地域に12軒、ペンティクトン地域に25軒、ケルデン地域に2軒、オカナガンフォールズ地域に10軒、オリバー地域に33軒、オソユース地域に8軒である (図2)。

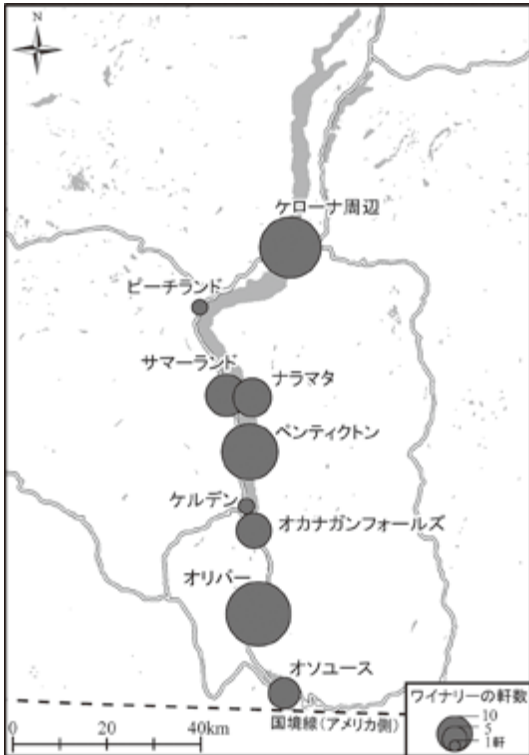


図2 オカナガンバレーのワイナリー
(British Columbia Winery Touring Guide 2015により作成)

オカナガンバレー全域をみると、地域によってミクロな気候条件は多様で、栽培されるブドウの種類は異なる。また、ワイナリーの規模、経営方針、ワインツーリズムの形態にも地域差が認められる。筆者は、3つの特徴的な地域を抽出することにより、オカナガンバレーワイン生産地域の全体像を明らかにできると考えた。すなわち、北からケローナ地域、ナラマタベンチ地域、オリバー・オソユース地域である。

本稿が対象とするのは北部のケローナ地域である。ここはオカナガンバレーにおけるブドウ栽培とワイン産業の発祥の地であり、オカナガンバレーのワイン産業とワインツーリズムの本拠地と呼ぶべき地域である。オカナガンレークの東岸に位置するケローナは、ブリティッシュコロンビア

州ではバンクーバー、ビクトリアに次ぐ人口を有し、内陸の経済と文化の中心都市である。近年、人口増加が顕著であり、オカナガンレークの対岸に位置するウエストケローナを含めると、オカナガン地域の人口は21万人を超える(2011年)。ワイン生産とワインツーリズムは、成長の著しいこの内陸地域の産業の一部を構成する。

ナラマタベンチ地域は、オカナガン湖の南岸の都市ペンティクトンからオカナガン湖の東岸に沿ってゆるやかに起伏した湖岸段丘の地域である。ナラマタベンチにはリンゴなどの果樹園が存在したが、近年、ブドウ園とワイナリーが増加し、風光明媚な農村景観が観光客の関心を集めている。ナラマタは「スローシティ」としても知られ、スローフード運動と連動したワインツーリズムの展開が特徴的である。

オリバー・オソユース地域はオカナガンバレー南部に位置する。バレー西側斜面の果樹地帯に、幹線道路97号線(3A)に沿ってブドウ園とワイナリーが形成された。一方、乾燥した東側斜面では、ブラックセージロードに沿って牧場からブドウ畑への転換が進んだ。また、この地域には大規模リゾート型ホテルと連動したワインツーリズムも顕著である。

ワイン生産地域をワインツーリズムの観点から明らかにする際に着目すべき要素は次のとおりである。すなわち、ワイナリーについては、ワイナリーの建物、テースティングルーム(試飲直売所)、ワインツアー、併設レストラン、リゾート型宿泊施設などである。ワインツアー会社はワインツーリズムにおいて重要な役割を演じ、ミニバンを用いてワイナリー巡りをする日帰り観光を提供する。公的な観光広報活動としては、観光案内所・ワインビジターセンター、ワインショップ、ワイン博物館が運営され、各種パンフレット、ワインツアーガイドブックなどが提供される。ワイ

ンフェスティバルは観光客を集客するためのアトラクションである。

以下では、ケローナ地域を対象として、ワイナリーとワインツーリズムの特徴について検討する。前述のナラマタベンチ地域とオリバー・オニューース地域のワインツーリズムについては、別稿で論じる予定である。

Ⅲ ケローナ地域のワイナリーとワインツーリズム

1. ワイナリー

ケローナ地域のワイナリーの分布を示したのが図3である。また、レークカントリー、ケローナ、ウエストケローナの3地区に区分し、ワインツーリズム関連の情報を表1にまとめた。

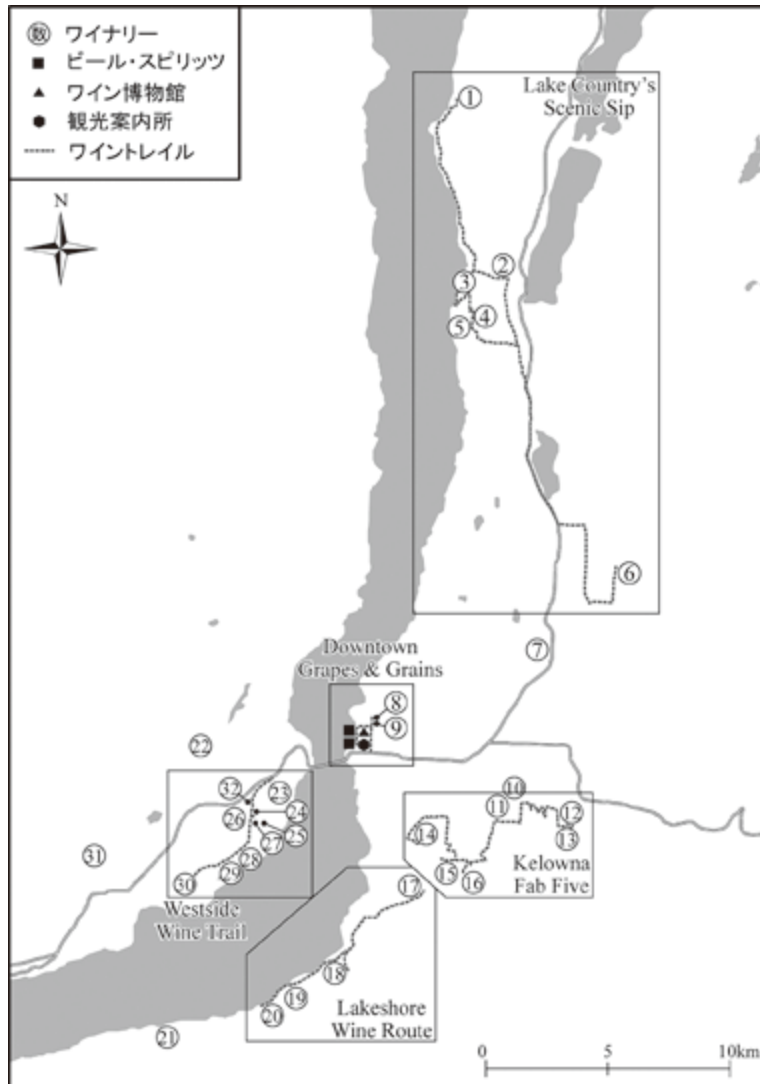


図3 ケローナ地域におけるワイナリーとワイントレイル

(British Columbia Winery Touring Guide 2015, Kelowna Wine Trails Okanagan, BC および現地調査により作成)

表1 ケローナ地域のワイナリー一覧

番号	創業年	創業者の出身地	創業者の前職 (*は現職)	試飲・ 直売	レストラン	ピクニック スペース	ツアー
レークカントリー							
3	1982	オーストリア&ドイツ	美容師	○	○	×	○
4	2003	スイス	酪農業・果樹	○	×	○	×
5	2008	アルバータ	ボート製造会社経営	○	○	×	×
1	2009	アルバータ	工学系会社経営	○	△	×	×
2	2009	バンクーバー	公務員	○	×	×	×
ケローナ							
8	1932	イタリア	?	○	×	×	×
20	1980	オカナガン	実業家・政治家	○	○	○	◎
18	1992	ニューヨーク	不動産業	○	○	×	◎
19	1992	スイス	銀行家	○	×	×	×
12	1993	アルバータ	教員	○	×	○	×
17	1997	?	*実業家	○	×	×	×
9	1999	?	?	○	×	×	×
7	2005	アルバータ	流通系企業経営	○	×	×	×
15	2008	ケローナ	リング農家	○	×	×	×
10	2009	BC& プリテン	客室乗務員	○	×	×	×
14	2009	ケローナ	ワイン生産	○	×	×	×
11	2010	ウエルズ	銀行勤務(米国)	○	×	○	×
16	2010	バンクーバー	*弁護士	○	×	×	×
6	2011	オランダ	?	○	×	○	×
13	2014	ウエルズ	銀行勤務(米国)	○	×	×	×
21	2014	チェコ	営業職	×	×	×	×
ウエストケローナ							
30	1966	?	?	○	○	○	◎
29	1989	オカナガン	園芸農業	○	○	○	◎
26	1996	カナダ	?	○	○	×	×
25	2001	インド	農業	○	×	○	×
23	2006	オンタリオ	園芸農業コンサルタント	○	×	○	×
24	2008	アルバータ	農業	○	×	×	×
31	2008	インド	農業	○	×	×	×
27	2009	インド	ブドウ栽培	○	○	×	×
22	2011	?	*弁護士	×	×	×	×
28	2015	?	*公認会計士	○	×	○	×
32	2016	台湾	*ワイン生産・貿易	△	△	?	?

1) ワイナリー番号は図3中のワイナリーに対応する。

2) ○：有 ×：無 △：計画中 ◎：有料ワインツアー

(British Columbia Winery Touring Guide 2015, Schreiner (2014), 各ワイナリーのホームページ, および聞き取り調査により作成)

20世紀末にワインブームが到来する前にもいくつかのワイナリーが存在した。最も古いのはワイナリー8番で、ケローナ市街地の中心部で1932年から操業を続けてきた。2番目に古いのはウエストケローナのワイナリー30番で、1966年にオカナガンレークを見下ろす丘の上に創業したが、バンクーバー出身の実業家である現在の所有者がこのワイナリーを購入したのは1981年のことであった。それ以来、ワイナリー30番はオカナガンバレーを代表するワイナリーの一つとして、またワインツーリズムの中核としての役割を果たしてきた。

1980年代には、レークカントリーに1軒、ケローナに1軒、ウエストケローナに1軒のワイナリーが開設された。1990年代には、ケローナに5軒、ウエストケローナに1軒のワイナリーが開業した。すなわち、32軒のワイナリーのうち、2000よりも前に開業したのは9軒であった。

ワイナリーが急増したのは2000年代のことであった。この時期に、レークカントリーに4軒、ケローナに4軒、ウエストケローナに5軒が開業した。2010年代に入ってもワイナリーは増加した。特にケローナで5軒、ウエストケローナで開設準備中の1軒を含めて3軒が新たに開業した。2000年以降に開業したワイナリーは21軒で、全体の66%を占める。ケローナ地域が21世紀に入って急速に発展した新しいワイン生産地域であることが理解できる。

このようなワイナリーの創業者の属性を検討すると、多様性が特徴として指摘できる。伝統的なワイン生産地域のように、農業、果樹栽培、ブドウ栽培に従事した人々がワイナリーを創業した事例もみられる。しかし、大多数のワイナリーは、農業やワイン産業とは無縁の人々によって始められた。表1を見ると、さまざまな経歴をもつ人々がワイナリー経営に参入したことが理解できる。

美容師、会社経営者、公務員、教員、政治家、不動産事業者、航空会社の客室乗務員、弁護士、公認会計士、農業コンサルタント、貿易業などである。こうしたワイナリー経営者は、ブドウ栽培やワイン醸造の知識や経験がなくても、ブドウ栽培とワイン醸造の専門家を雇用することによってワイン産業に参入することが可能である。

創業者の出身地をみると、地元であるオカナガンバレーの出身者はごく少数である。カナダ国内については、アルバータ州出身者が5人いるほか、ブリティッシュコロンビア州とオンタリオ州の出身者が若干名いる。一方、外国出身者が多いことも特徴である。アメリカ出身者が一人いるし、アメリカで働いた後にオカナガンバレーに来たイギリス人が一人いる。ヨーロッパについては、イタリア、オーストリア、ドイツ、イギリス、スイス、オランダ、チェコの出身者がワイナリー経営に参画した。また、アジア系では、インドや台湾の出身者もいる。多様な国々からこの地域に流入し、ブドウ栽培とワイン醸造に従事するようになったことが理解できる。ケローナ地域のワイン産業はカナダの多民族社会を象徴するといっても過言ではないかもしれない。

以上のように、新しいワイン地域であるオカナガンバレーでは、多様な地域の出身者で多様な職歴を有する人々がワイナリー経営に参画し、多様な取り組みが行われてきた。こうした活力と多様性がワインツーリズムの資源となっていると推察される。

2. ワイントレイル

ケローナ地域のワイナリーを巡るために有力なガイドとなるのは、Tourism Kelownaによって毎年刊行されるパンフレット*Kelowna Wine Trails Okanagan Valley, BC*である。この2015年版には5つのワイントレイルと訪問ルートが図示され、

参加する23のワイナリーに関する情報が写真とともに掲載されている。ワインツーリズム客は、このパンフレットの記載から、それぞれのワイナリーの営業時間やレストランの有無などを確認することができる。パンフレットの巻末には、どのワイナリーでどのようなワインが作られているのかが、ブドウの種類による赤ワインや白ワインごとに、また、ロゼ、スパークリングワイン、アイスワインごとに一覧として掲載される。ケローナのワインとワイナリーに関する簡潔な年表は、この地域のワイン産業の概要を頭に入れておくために役立つ。

ケローナの北でオカナガンレークの東岸に位置するレークカントリーでは、ワイナリーを巡るワイントレイルはレーク・カン트리ーズ・シーニック・シップ (Lake Country's Scenic Sip) と命名されている。この地域はもともと果樹地帯であったが、2000年代に入って小規模ワイナリー地域が形成された。ケローナ北東部の一つのワイナリーを含めて、ワイナリー1番から6番までの6軒のワイナリーを訪問するルートが例示される。6軒のなかでレストランを併設するのは2軒であり、ワインツアーを提供するのは1軒である。これらのワイナリーは独自の広報活動を行っている。6軒のワイナリーを訪問してスタンプを集めて応募すると、6月1日、9月1日、12月1日、4月1日に抽選が行われ、1ケース(12本入り)が当たるといったキャンペーンである。詳細を記したパンフレット (Lake Country's Scenic Sip Passport) が各ワイナリーで配布される。

ケローナ市街地の中心部を巡るワイントレイルはダウNTOWN・グレイプス・アンド・グレインズ (Downtown Grapes & Grains) である。オカナガンバレーで最も古いワイナリー8番と比較的新しいワイナリー9番が隣接している。これらに加えて、ビール醸造所と各種の蒸留酒を生産する

蒸留酒工場がこのワイントレイルに参加し、テスティング客を歓迎する。

ケローナ東部の果樹地帯には小規模ワイナリーが形成され、そのワイントレイルはイースト・ケローナ・ワイン・トレイル (East Kelowna Wine Trail) やケローナ・ファブファイブ (Kelowna FabFive) と呼ばれる。5マイルのトレイルに特徴的なブティック型ワイナリー (11番, 12番, 14番, 15番, 16番) が並ぶ。果樹栽培からブドウ栽培へ、そしてワイナリーへと事業を展開したワイナリーがある一方、ワインと芸術の融合を目指す新しいタイプのワイナリーもある。いずれのワイナリーも小規模なため栽培されるブドウの種類は少なく、主に白ワインが少量生産される。これらのワイナリーは独自のパンフレットを刊行しており、各ワイナリーには Kelowna FabFive の看板が掲げられている (図4)。

ケローナ市街地から南方の湖岸にもワイナリーが軒を連ね、そのワイントレイルはレークショア・ワイン・ルート (Lakeshore Wine Route) と呼ばれる。参加する4軒のワイナリー (17番, 18番, 19番, 20番) は比較的規模が大きく、オカナガンレークを望む眺望に恵まれる。これらのワ



図4 ケローナ東部のワイントレイル (FabFive) の看板

(2016年3月撮影)

イナリーはいずれもワインツーリズムに力を入れており、レストランを併設する2軒のワイナリーは有料ワインツアーを提供する。そのうちの1軒にはシーズンになると大型観光バスが頻繁に訪れ、中国人団体客も目立つ。ワイナリー案内のための中国語パンフレットも作っているのが特徴である。

オカナガンレークの西岸のウエストケローナは大規模ワイナリーと小規模ワイナリーが混在する地域であり、その中心をなすブシェリーロードに沿ってワイナリーが軒を連ねる。ウエストサイド・ワイン・トレイル (Westside Wine Trail) には大規模経営の4軒 (ワイナリー25番, 27番, 29番, 30番) が参加し、オカナガンバレーのワインツーリズムをけん引する役割を果たしている。この地区のワイナリーは独自に Westside Wine Trail というパンフレットを刊行しており、非公開の1軒を除いて9軒のワイナリーが掲載される。このうちの5軒のワイナリーを訪問してスタンプを集めて投函すると、抽選によってギフトカードがもらえるというキャンペーンも行われた。最近の抽選は2016年3月31日であった。な

お、この地域のワインツーリズムについては後述する。

3. 観光案内所とワイン博物館

ワインツーリズムを支援する機関の一つは、ケローナ市街地の中心部、幹線道路の97号線に沿って位置する観光案内所 (Information Centre) である。ブリティッシュコロンビア州には州政府による観光案内所が充実しており、旅行者に様々な情報を提供してくれる。ここはワインツーリズムを開始する前に立ち寄るべき重要なスポットである (図5)。

入口に向かって左側の外壁にはオカナガンバレーの観光地図が描かれ、地域全体の観光資源が概観できるし、現在地を確認することができる。入口を入ると正面にカウンターがあり、係員が親切に対応してくれる。カウンター上に置かれた観光地図には地域情報が満載されている。右手の壁面には観光ガイドや施設の宣伝用パンフレットが陳列されており、観光の目的に応じて、必要な資料を自由に入手することができる。

ワインツーリズム関係のコーナーには、ワイナ



図5 ケローナの観光案内所

(2016年3月撮影)

リーのパンフレットが置かれている。なかでも前述の*British Columbia Winery Touring Guide 2015*は重要な資料であり、州内のすべてのワイナリーを地域ごとにリストし、住所とホームページを記載している。また、前述のように*Kelowna Wine Trail Okanagan Valley, BC*には、ワイントレイルとワイナリーに関する情報が掲載され、自動車でのワイナリー巡りをするための有力なガイドブックである。それぞれのワイナリーが作成したパンフレット（基本的なサイズは10.2cm×22.8cm）が並べられており、それぞれのワイナリーの概要を知ることができる。さらに、ミニバンなどでワイナリー巡りをするワインツアーに関するパンフレットも置かれている。

ワインツーリズムを始める際に起点となるもう一つのスポットは、ケローナ市街地の中心部に位置するワイン博物館（BC Wine Museum）である（図6）。VQA ワインショップの奥のスペースを利用して、小規模ではあるが地元のワイン産業に関する展示がなされる。この建物はもともと果樹出荷施設（Laurel Packinghouse）で、1970年代初頭まで使用された。その後、市街地再開発の一環としてケローナ市がこの建物を買い取り、ケローナ博物館協会が博物館スペースとして使用するよ

うになった。同じ建物には果樹産業博物館（BC Orchard Industry Museum）が入っている。

4. ワイナリーを巡るツアー

ワインツーリズムの方法として、自分の車で自由にワイナリー巡りをする方法がある一方、地元の会社がさまざまなワインツアーを提供している。ホテルではワインツアーを斡旋してくれる。また、前述の観光案内所にはワインツアーのパンフレットが置かれており、22のツアー会社がワインツアーを提供している。通常はミニバンでワイナリーを巡るが（図7）、なかにはキャデラックやサイドカーを使用してワイナリーを案内する企画もあるし、ヘリコプターを使用したワインツアーも企画されている。

IV ウェストケローナのワイナリーと土地利用

ケローナ地域におけるワインツーリズムの中核をなすのがウェストケローナである。ここには、2016年春の開業を目指して建設中のものを含めて、11軒のワイナリーが存在する。オカナガン湖に向かって緩やかに傾斜する斜面に広がるブドウ栽培景観、The Wine Trailというバナーが飾られたワイン街道ブシェリーロード（図8）、それ



図6 ケローナのワイン博物館

（左：2014年9月，右：2015年8月撮影）



図7 ミニバンによるワインツアー

(左：2015年9月，右：2015年8月撮影)



図8 ウェストケローナのワイントレイル（ブシェリーロード）

(2016年3月撮影)

に沿って立地する大小のワイナリー、そしてワイナリーに併設された個性的なレストランから判断して、この地域がオカナガンバレーのワインツーリズムのショーケースであることが理解される。

図9は2016年3月現在におけるウエストケローナの土地利用を示したものである。この地域はブドウ畑が卓越する農業地域ではない。中央にそびえるマウントブッシュェリー山は地域公園に指定さ

れ、その北側を走る幹線道路97号線に沿って商工業施設が集積する。また、オカナガン湖の湖岸線に沿って、マリナーを備えたリゾート型住宅地が連なる。広々としたゴルフ場もある。一方、緩やかな傾斜地には郊外住宅が広がる。特に97号線の北側の山腹斜面には、新しい大規模な住宅地開発が進行している。すなわち、この地域に展開する多様な産業活動の一つとして、ブドウ栽培、

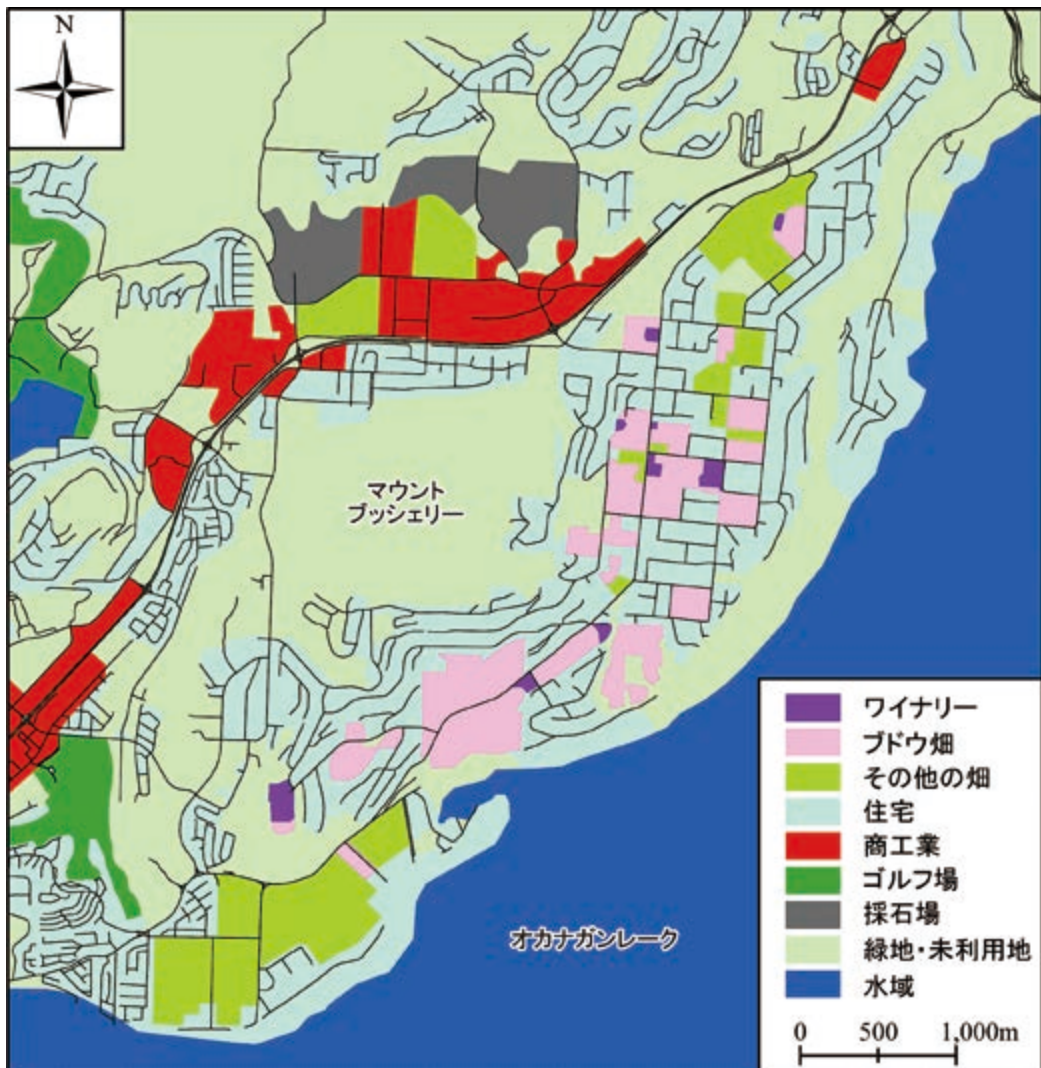


図9 ウェストケローナのワイナリー・ブドウ園と土地利用 (2016年3月)

(空中写真および現地調査により作成)

ワイン生産、ワインツーリズムが存在する。

ウエストケローナのワインツーリズムの原動力は個性豊かなワイナリーの集積である。ワイナリーとワインツーリズムに関する活動を概観してみよう。

ワインツーリズム客が必ず訪れるのがワイナリー30番である。ワインツーリズムを意識したしゃれた建築、多様なワインツアー、高級レストランによって多くの観光客を引き付ける（図10）。オカナガンバレーを訪れるワインツーリズム客でこのワイナリーを訪れない観光客は珍しいことであろう。

このワイナリーの起源は1966年にさかのぼるが、バンクーバー出身の現在の所有者M氏が1981年に購入した。ヨーロッパ出身の両親を持つM氏は、幼少時代にヨーロッパで過ごしたこともあり、ワインと芸術への関心が育成された。ワイナリーの随所に人間の姿の芸術モニュメントが置かれ、ユニークな景観を作り出す。また、オカナガンバレーの各地に400haのブドウ園を所有するため、生産されるワインの種類は多く、顧客の多様なニーズにこたえることができる。ワインツアーにも力を入れており、ワインツーリズム客



図10 ケローナ地域を代表する大規模ワイナリーとワインツーリズム客
(2015年9月撮影)

の経験や関心に応じて複数のワインツアーが用意される。併設のレストランはワイナリーレストランとして国際的に高い評価を受けている。

ウエストケローナで2番目に古いのがワイナリー29番である。経営者の一族はアイルランド出身で、20世紀初めにこの場所に入植して園芸農業を始めた。当時の丸太小屋が残っており、ワインツアーはこの歴史的建物の解説から始まる。このワイナリーはワインツアーとレストラン経営に力を入れており、屋外レストランは人気が高い。また、売店のテラスからオカナガンレークを見下ろす眺望は素晴らしい（図11）。3カ所に合計240haのブドウ園が経営され、そこでは最初に栽培したピノヌワールを含めて14種類のブドウが栽培される。オカナガンレークのウォーターフロントに豪華な宿泊施設を経営するのも、このワイナリーの特徴である。

ウエストケローナのワイナリーのなかでレストランを併設するのがワイナリー27番で、ブシェリーロードに面する立地条件に恵まれる。十分な駐車場と広いテースティングルームは、ワインツーリズムを意識したつくりになっている。また、併設するレストランでは、年間を通してオー



図11 ウエストケローナのワイナリーからの眺望
(2014年9月撮影)

ナーシェフによる南アジア風の料理を楽しむことができる。

このワイナリーはインド系移民によって経営されるが、その東に隣接するワイナリー25番もインド系移民による。3兄弟の父親はインドから移住して、1970年代にオカナガンバレーでブドウ栽培を行うようになった。2001年にワイナリーを開設したが、兄弟の一人が独立してワイナリー27番を開業した。これら二つのワイナリーは、ウエストケローナにおけるインド系の存在をアピールしている。

ワイナリー27番の西側の山腹斜面にはワイナリー26番がある。これはウエストケローナでは3番目に古いワイナリーである。前述の *Kelowna Wine Trail Okanagan, BC 2015* には掲載されていないが、レストランを併設する。特に、レストランのテラスからブドウ畑とオカナガンレークを見下ろす眺めは格別である。もう一つの小規模ワイナリーは、ワイントレイルのブシェリーロードに沿って小さなテスティングルームをもつワイナリー24番である。ここではブドウのオーガニック栽培を行い、ワインを少量生産している。また、ワイナリー23番も小規模経営で、ブドウのオーガニック栽培にこだわる。かまぼこ型の簡易な建物がワインの醸造と貯蔵のスペースで、雑然とした作業場のなかでワインテスティングと販売が行われる。

もっとも新しいワイナリーは28番で2015年に開業した。これはシングルヴィニヤードワインの生産という新しいプロジェクトに取り組んでいる。すなわち、オカナガンバレーとその南西に隣接するシミルカミーンバレーの16カ所のブドウ園と契約し、生産地を限定した高級ワインを生産する。その拠点となるのがウエストケローナのワイナリー28番である。

ウエストケローナにはさらに新しいワイナリー

32番が建設中である。2016年3月現在で開業に向けて建設事業が進んでいた。このワイナリーはワイントレイルのブシェリーロードの最も高い地点にブドウ園が広がり、南に向かって斜面を下る道路の起点という戦略的な位置にある。経営者は台湾出身の実業家で、バンクーバーの南に位置するリッチモンドでワイナリー経営に携わり、ワインを輸出してきた。建設中の施設の規模から判断して、このワイナリーはウエストケローナのワインツーリズムの新しい核を形成するものと推察される。

なお、図9の範囲外には二つのワイナリーがある。ワイナリー31番はインド人が経営する小規模ワイナリーで、ブドウのオーガニック栽培を行う。ブドウ園にワイン醸造施設と事務所の入った建物があり、作業スペースのなかで試飲と販売が行われる。もう一つはワイナリー22番で、ワインツーリストを受け入れていない。未舗装の山道に面してブドウ園を確認できるが、ワイナリーの看板は見当たらない。ただ、ホームページは開設されており、ワインをネット上で購入することができる。

V まとめ

オカナガンバレーは、20世紀末から高級ワインの生産地として急速に成長した。南北に細長いオカナガンバレーには多様な環境が存在し、多様なブドウが栽培される。政府による振興政策を受けて、州政府による保護と統制およびVQA制度による品質保証を基盤として、20世紀末から新しいワイン生産地域が発展した。ケローナ地域の32軒のワイナリーを概観することにより、多様な人々がワイン生産に参入し、多様な試みがなされていることが明らかになった。この地域の人口増加とオカナガン産ワインに対する高い評価を考慮すると、このワイン生産地域の発展は継続する

ようにみえる。

このような新興ワイン生産地域の誕生の背景には、国内需要の増大、ワイナリーによる積極的な広報活動（ワインツアー、テースティングルーム、ホームページ、パンフレット、通年営業）、ブドウ栽培とワイン醸造の専門家という人的資源の存在があげられる。また、ワインは人々の日常生活の一部であり、お気に入りのワイナリーで好みのワインをまとめて購入するのが一般的であるようにみえる。ワインの価格は決して安くはない。しかし、地元の食材を使って地元のワインを楽しむという地産地消の発想が、人々に根付いているようにも見受けられる。『100マイルダイエット』（Smith and MacKinnon, 2007）が話題になるような人々の思考が、ワインツーリズムの背景に存在するのであろう。

本稿における検討から、オカナガンバレーの新興ワイン生産地域を理解するために、ワインツーリズムに着目することが有効であることが分かった。今後、オカナガンバレーのナラマタベンチ地域とオリバー・オソユース地域について、現地調査と検討を続けて行きたい。また、日本のワインツーリズムと比較研究するために、ワインツーリズムの背景に存在するカナダの人々の生活文化についても検討する必要性を痛感する。

【付記】

本稿は平成26・27年度科学研究費補助金基盤研究(B)「カナダにおける農村空間の商品化による都市-農村共生システム構築の実証的研究」(研究代表者:田林 明, 課題番号:26000032)の研究成果の一部である。

文 献

- ディオーン, R. 著, 福田育弘・三宅京子・小倉博之訳 (2001): フランスワイン文化史全書: ブドウ畑とワインの歴史. 国書刊行会. Dion, R. (1959): *Histoire de la Vigne et du vin en France des Origines au XIX^e Siecle*. Dion.
- Carmichael, B. A. and Senese, D. M. (2012): Competitiveness and sustainability in wine tourism regions: The application of a stage model of destination development to two Canadian wine regions. In P. H. Dougherty ed. *The Geography of Wine: Regions, Terroir and Techniques*, 159-178. Springer.
- de Blij, H. J. 1983. *Wine: A Geographic Approach*. Rowman & Allanheld, Publishers.
- Hall, C. M., Sharples, L., Cambourne, B. and Macionis, N. eds. (2000): *Wine Tourism around the World: Development, Management and Markets*. Routledge.
- Schreiner, J. (2014): *John Schreiner's Okanagan Wine Tour Guide: The Wineries of British Columbia's Interior Fifth edition*. Whitecap Books.
- Senese, D. M., Wilson, W., and Momer, B. (2012): The Okanagan wine region of British Columbia, Canada. In P. H. Dougherty ed. *The Geography of Wine: Regions, Terroir and Techniques*, 81-91. Springer.
- Smith, A. and MacKinnon, J. B. (2007): *The 100-Mile Diet: A Year of Local Eating*. Random House Canada.

Wine Tourism in the Kelowna Area of Okanagan Valley in British Columbia, Canada

YAGASAKI Noritaka

Department of Geography, Nihon University

Okanagan Valley in the interior of the province of British Columbia came to be known as the major wine making region in Canada at the close of the twentieth century. I attempted to scrutinize the development process of a wine region by focusing on wine tourism. Special attention was paid to the Kelowna area that constitutes the core of the Okanagan Valley wine region, where thirty-two wineries are located. Characteristics of wineries and proprietors, types of wine tourism, and land use changes were analyzed. A variety of people from different countries with different occupational backgrounds participate in the wine making and winery management. Provincial and local governments contribute to wine tourism by operating a tourist information center, publishing brochures, and supporting a wine museum. New wineries are opened and new attempts are made in wine making. Considering the continued population growth of the region and the appreciation of Okanagan wines suggest that further development of wine industry and wine tourism are expected.

Keywords: wine, winery, wine tourism, Okanagan Valley, Canada